

スクールホットライン

キャリア教育プロジェクト「夢への一歩」

from 豊山小学校

豊山小学校では、今年度、愛知県教育委員会から委託を受け、「地域に学び・語り継ぐキャリア教育」推進事業を進めています。キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。子どもたちにとって身近な職業の方から学ぶことのほか、航空産業のまち、豊山町だからこそできることはないかと考え、次のような体験活動や講演会を企画・実施しました。

まずは、「社会人に学ぶ」と称して警察官・救急救命士・理容師・調理師の方から、その職業について話していただきました。仕事の内容について話していただいただけでなく、なぜその仕事を選んだのか、仕事のやりがいや苦労は何かなど、子どもたちの質問にも丁寧に答えていただきました。中には、簡単な体験活動をさせていただいたグループもありました。

次に、愛知県防災航空隊の見学です。隊員の方に仕事の様子を聞かせていただいたり、救助に使用する機材やヘリコプターの中を見せていただいたりしました。防災航空隊は、県営名古屋空港内にあるとはいえ、個人で自由に見学できる場所ではなく、貴重な体験となりました。

最後は、JAXA職員による講演会で

す。前述の二つは六年生だけの体験でしたが、講演会は低学年と高学年に分かれ、全児童が聞きました。ペットボトルロケットの実験を見せていただいたり、宇宙に関する話を聞かせていただいたりしました。途中、科学についてのクイズもあり、あつという間に予定の時間が過ぎました。

これらの体験活動は、キャリア教育の目標の一つである「夢や希望をはぐくみ、憧れの気持ちをもって、自分の将来を考える」ことへの一歩になったのではないかと思います。今後も、学校の教育活動全体を通して、キャリア教育を進めていきたいと思えます。



私の航空史

岡野允俊

「空の踏切」

昭和二十八年、従業員二百名で小牧工場はスタートした。この頃、社員はほとんど会社の貸切バスで通勤していた。バスが滑走路南端を通るとき、離発着の飛行機があると、警報灯が灯きブザーが鳴って遮断機が下り、一時停車をさせられる「空の踏切」があった。小牧基地はその後三次にわたる拡張の後、日米講和条約の成立により昭和三十三年九月、日本に返還された。その後も飛行機の高速化、大型化に伴い滑走路の延長が行われ、周辺の地域から基地拡張反対闘争が行われた。その後、米第五空軍が府中に移り、昭和三十四年五月に航空自衛隊第三航空団の基地として使用されることになった。

この時点で自衛隊と民間航空側の運輸省との綱引きが始まった。昭和三十五年四月には「小牧飛行場」から「名古屋空港」と改称され、名古屋の官財界を中心に国際民間空港を目指して活発な運動が始まり、大蔵省の調整によって昭和三十七年八月、民間と防衛庁との共同飛行場とすることが決まった。滑走路を挟んで東側が防衛庁、西側を民間で使用する事になり、現在の姿になった。三菱ではYS-11やMU-2など新しく開発された民間機やT-2、F-1、F-4、F-15そしてF-2という自衛隊戦闘機もここから飛び立っていった。特に戦後日本で初めて音速を超えたT-2高等練習機、これにコンピュータによる縦方法を取り入れたCCV研究機の初飛行など忘れがたい印象的なものであり、名古屋空港は戦後日本航空機工業の晴れ舞台となっていた。

特集

町政あんない

情報コーナー

まなびすと

キラリ健康ナビ

わいわいプラザ